

芸術文化課程

●課程の教育理念と教育目的

21世紀を迎えた現代社会では、精神的な充実感や心の豊かさが一層強く求められています。「音楽文化コース」、「造形芸術コース」で構成される本課程では、このような社会的な要請に応えながら、「音楽」、「造形芸術」の各分野において創造的能力を発揮し、豊かな芸術文化を地域社会と共有し、その発展に寄与することを目的としています。さらに、教育学部に設けられた芸術分野の課程として、社会教育や生涯学習に携わる中で、芸術を通して広く社会に貢献できる人材の養成を目指します。

●課程のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 生涯学習社会を築くため、芸術文化全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における専門的知識を修得している。

<思考・判断>

2. 芸術分野におけるさまざまな問題について考察し、幅広い視野で適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 地域社会の芸術文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。

<関心・意欲>

4. 芸術文化に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的・自律的な学習ができる。

<態度>

5. 社会人としての使命感や責任感とコミュニケーション能力を身につけ、人と芸術の関わりや芸術の持つ深い精神性を理解し、社会の一員として適切な行動ができる。

●課程のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解・実技能力>

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。

・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

・スポーツ、音楽、造形などに関して、修学に必要な実技能力を有している。

<思考・判断>

2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

<技能・表現>

3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

<関心・意欲>

4. 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。

<態度>

5. 積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

音楽文化コース

●コースの教育理念と教育目的

人が文化的環境のなかで心のやすらぎを見出すことは、人間として生きていく上で基本的な願いであると言えるでしょう。本コースは、音楽文化に対する豊かな見識を備え、地域社会に密着した音楽文化の推進者、発信者となりうる人材の養成を目指すコースです。コースは声楽、ピアノ、管楽器、弦楽器、作曲、音楽学の6専攻からなり、精選されたカリキュラムが、レッスン、グループ、ゼミ授業形式などの形態で高い密度を保ちながら展開されます。地域の音楽文化発展に資するために、アンサンブル等の科目も設けられています。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 充実した生涯学習社会を築くため、音楽文化に関する確かで幅広い知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

<思考・判断>

2. 演奏・作品創作や音楽の学問的研究などで培った知見をもとに、音楽文化に関するさまざまな課題について、適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 地域社会における音楽文化振興に貢献するために、高い演奏技能と豊かな音楽的表現力を身につけている。

<関心・意欲>

4. 音楽文化に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な音楽活動ができる。

<態度>

5. 人と音楽との関わりや音楽の持つ深い精神性を理解し、音楽を通じて社会に広く貢献できる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

カリキュラムはクラス授業の他に、各専攻別の個別レッスン、少人数による合奏やゼミ等があります。また専攻以外の楽器の履修も可能で、地域の音楽文化発展に役立つ人材養成のために多くの科目が用意されています。各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年；ピアノ、作曲、音楽学、音楽デザイン、日本の芸能、声楽

第2学年；ソルフェージュ、音楽史、音楽文化論、編曲法

第3学年；日本音楽教材研究、音楽学、表現学習ゼミ、伴奏法

第4学年；日本音楽実践研究、器楽アンサンブル、合唱

造形芸術コース

●コースの教育理念と教育目的

急速に変化する今日の社会では、創造的で活力のある人材が求められています。とりわけ造形芸術における「ものづくり」の体験は、生活に潤いと充実を求める現代社会において、ますます重要な意義をもっています。

本コースは、このような社会状況の変化と地域社会の要請に積極的に対応しながら、造形芸術に関する豊富な知識と高度な技能を備え、多様な芸術文化活動の推進者・支援者となりうる専門性の高い人材の育成を目指します。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。

<思考・判断>

2. 造形芸術分野におけるさまざまな問題について考察し、幅広い視野で適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 地域社会の造形芸術分野に関する文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。

<関心・意欲>

4. 造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして、主体的・自律的な学習ができる。

<態度>

5. 造形芸術に関わる多様な活動を通して、社会人としての使命感や責任感とコミュニケーション能力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

本コースでは、絵画・彫刻・デザイン・工芸など主に実技の授業を通して「ものづくり」の基礎的な技術を習得します。その後、一人ひとりの適性や目的に応じて、これらの分野のいくつかについて、より専門的な能力を高めていきます。実技関係だけでなく、美術理論・美術史に関する科目も用意されています。また、博物館学など指定された授業科目を履修することで、学芸員の資格を得ることもできます。各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年;平面基礎演習, ベーシックデザイン, 立体基礎演習, 工芸演習

第2学年;絵画, ビジュアルデザイン, 彫刻, 陶芸, 日本美術史演習, コンピュータデザイン演習

第3学年;生活造形論, 課題研究(絵画, デザイン, 彫刻, 工芸), クラフトデザイン, 日本美術史

第4学年;美術理論・美術史演習, 図法製図, 工芸概説